

名前：

二十一世紀の今、何でも便利になつてくる。
特にこの三十年間盛んに発展しているパソコン産業である。パソコンの機能の増進とともに、インターネットも現代人にとって、不可欠なものになった。
確かに、尤も学生たちとしてのわれわれ、インターネットを使用する頻度は非常に高い。世界中最新の情報を集めたり、友達の近況を知ったりできること、さらに、オンライン・ゲームもこのうちにしゃれている。否定できないのは、この世代のわれわれ、読書時間は以前より、ますます減っていく。それに、今の十代、或は十代以降の子は書を読まなければ読まないほどうすると思える。本当にいいのか、僕もよくこの問題に悩んで考えている。小さい頃から、両親に書を読んでもらい、それに従って、中国語の程度も同年のクラスメートより、一段も高めていた。だが、大学に入ってから、ほとんど教科書以外のを読まないのでも、中国語のレベルが

昔の自分より、下手になつて、下り坂を歩いている感じがしている。日本語学科がゆえに、中国語が衰退するものではない。不断に自分を充実させること、前向きにできるのであらうかと思う。
「新聞や雑誌は必要なの」という質問で、必要だと思ふ。なぜならと言え、内容の広さと深さは最も重要なポイントである。及び、紙の触感は何よりもどこでも読めるもその利点である。また、皆はパソコンが使えるわけがないのだから。うちの両親こそ、使えない部分に属する。新聞や雑誌などを扱えば、うちの両親はどうすればいいのか。今の五十代以上、使えない人はたくさんいるし、そのため新聞や雑誌が出版し続けられなくなっていくと思ふ。
中身と言、たとひに、自分を充実させることは一番大切だともう一度言いあらねばならぬ。それだけに、この虚しく、競争的な社会で生きられるのだから。

1800字